

# (仮称) 八ヶ岳 C C 太陽光発電所建設事業 事業概要等のあらまし

令和 5 年 3 月

株式会社 ノザワワールド

# 事業概要

対象事業 の名称	(仮称)八ヶ岳CC 太陽光発電所建設事業
対象事業 の種類	太陽光発電所
発電規模	発電設備の出力 29,500 KW (交流) 45,000 KW (直流)
対象事業実施 区域の位置	長野県南佐久郡南牧村 大字海尻字清水原
対象事業実施 区域の面積	481,500 m <sup>2</sup>
対象事業実施 区域の現況	18ホールのゴルフ場 (人工構造物、 芝地及び樹林)

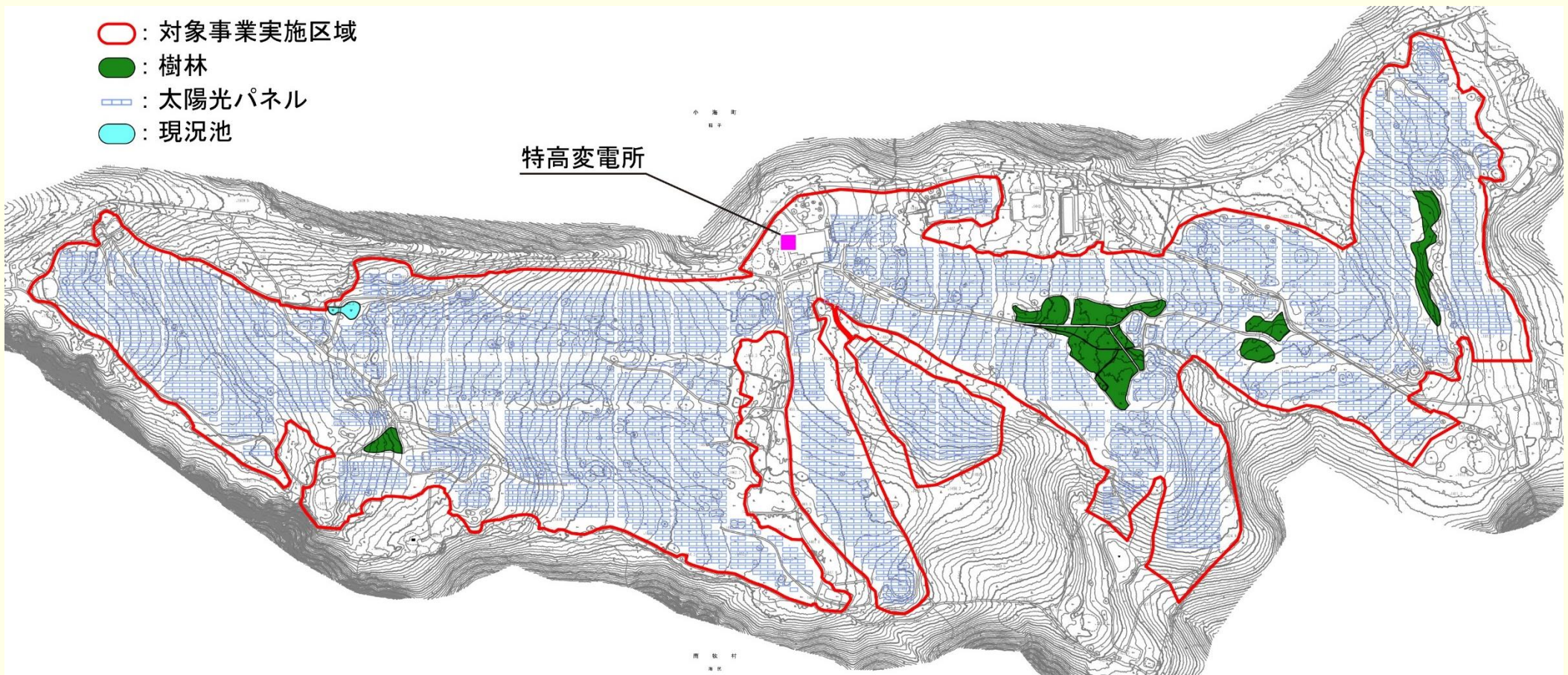


## ● 土地利用及び主要設備の配置計画

### 〈土地利用の方針〉

- ・ ゴルフ場内のコースをそのまま利用し、新たな造成は行わない。
- ・ 土地の形質変更を伴う造成工事を行わない。
- ・ 現状の流域、流向等に手を加えず、既存の排水路の活用、現況地形の利用を図り、土地の安定性に配慮する。
- ・ 樹林の伐採は、ゴルフ場コース間の極最小限とするとともに、伐根しない。

用途	面積(m <sup>2</sup> )	割合(%)
施設用地	467,341	97.06
樹林	13,695	2.84
現況池	464	0.10
合計	481,500	100.00

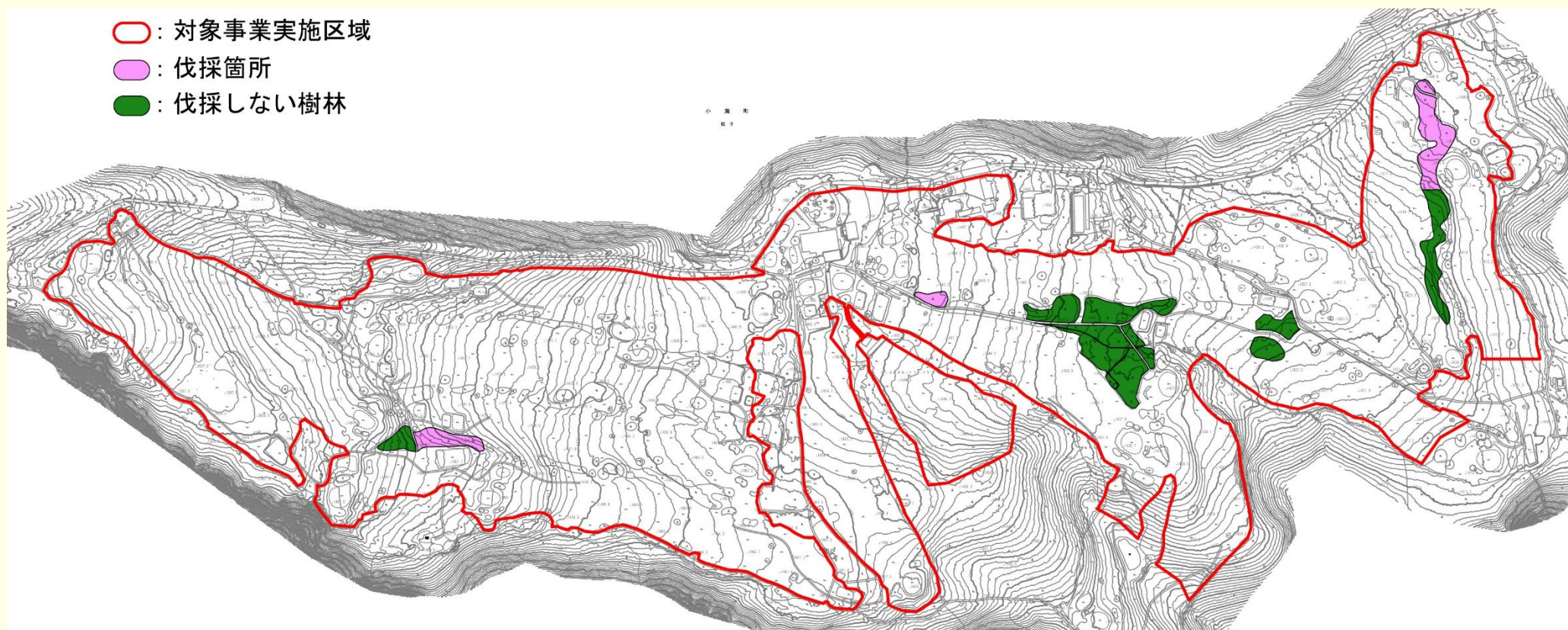


# 工事計画の概要

## ● 主な工事内容 (工事期間はおよそ2年を予定)

### <伐採工>

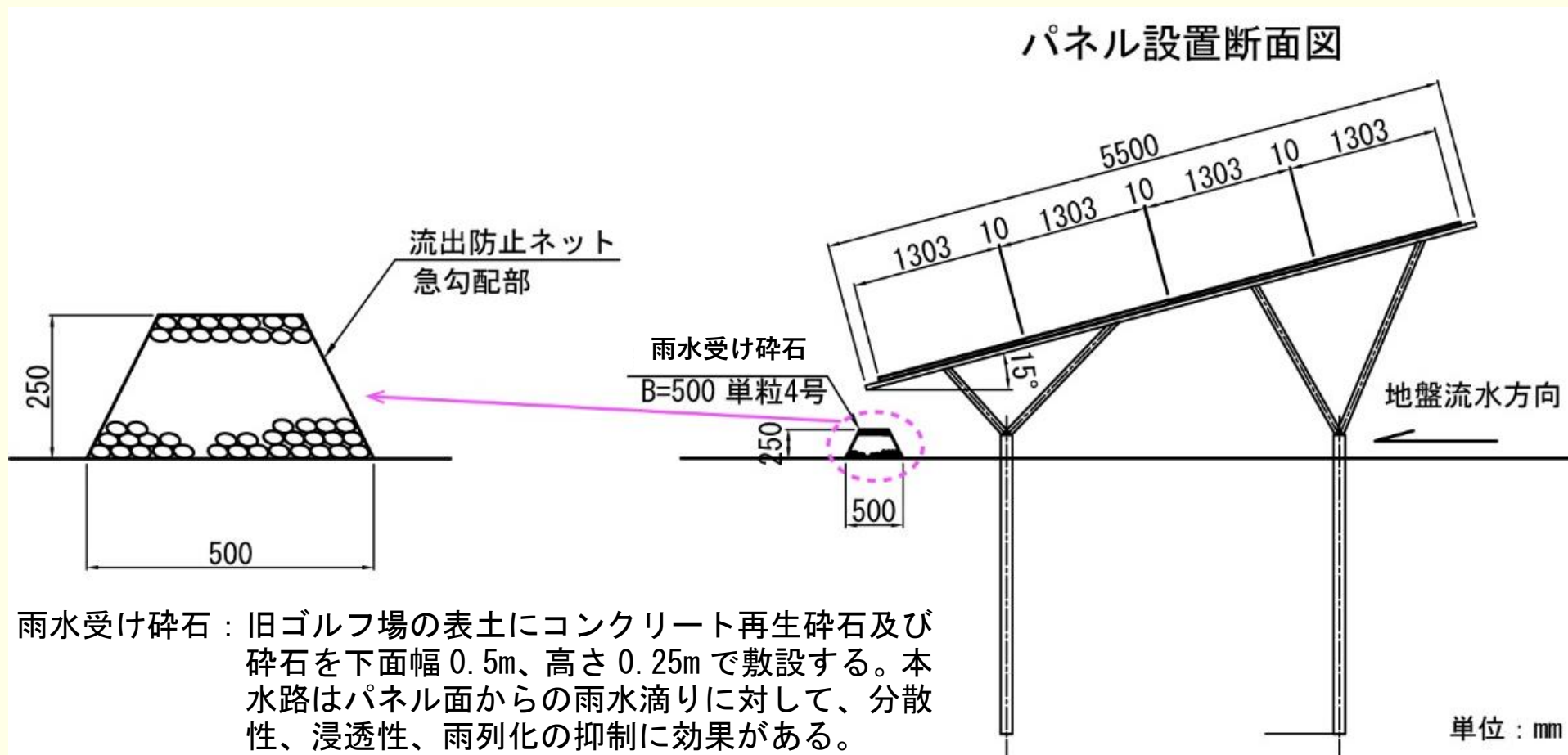
- ・ 伐採面積 : 4,868m<sup>2</sup>
- ・ 伐採箇所 : ゴルフコース間の林
- ・ 伐採理由 : 太陽光パネル敷設面積の確保、及び発電阻害の除去



伐採は、多少樹高を残置させることで抜根作業を伴わないことにより、土地の形質変更を伴わない作業とする。

## <太陽光パネル設置工>

- ・ 位置決め → 所定の位置に杭(φ0.2m)を打ち込む(杭深度は1.5~2.0m程度)  
→ 架台くみ上げ → パネル設置
- ・ パネルを伝う雨水による土壌浸食の対策として、以下に示す雨水受け砕石を設置する。



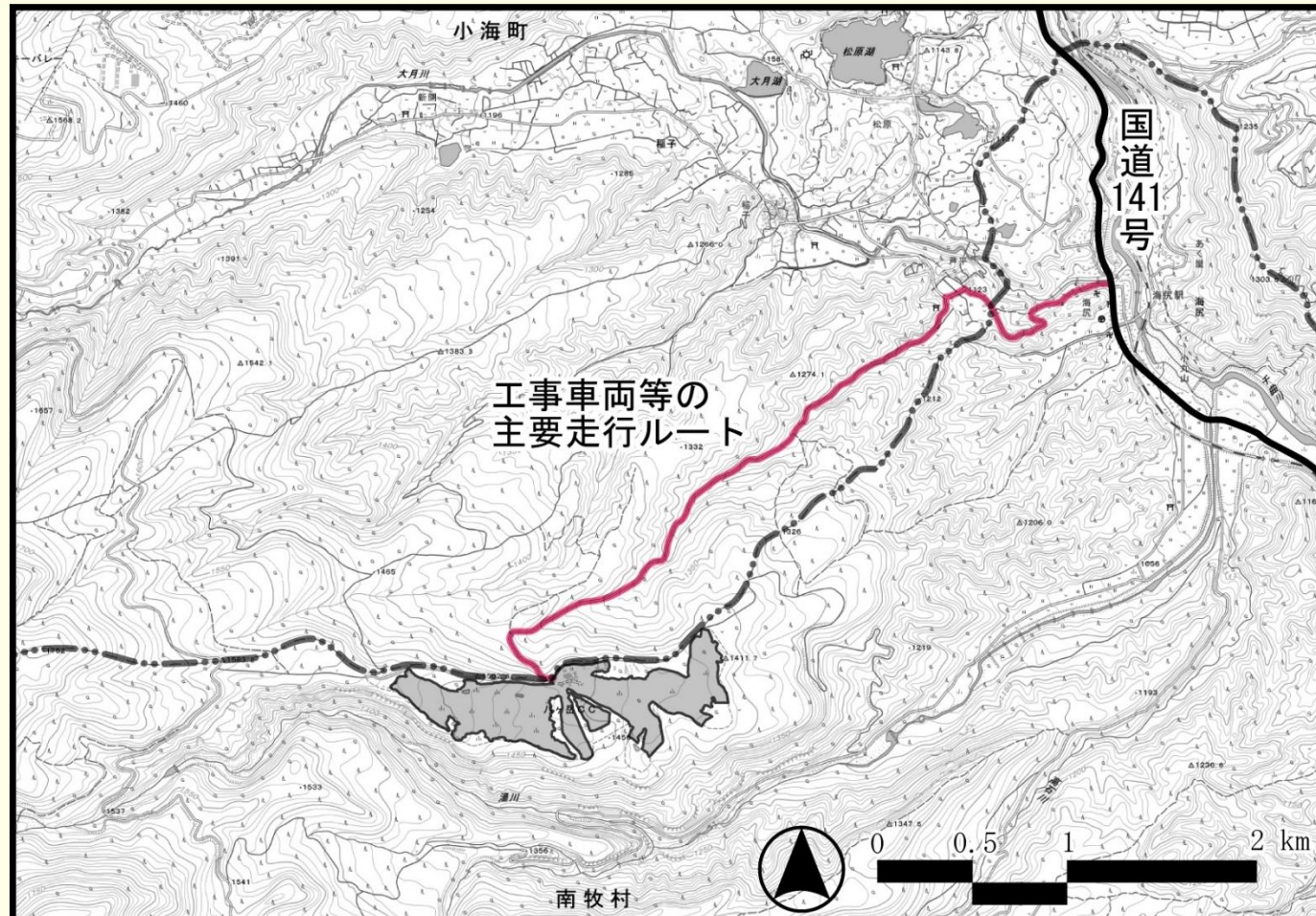
## <電気工>

- ・ PCS設置 → PCSから変電設備へケーブル敷設 → 電氣的検査、ボルト締め直し検査

PCS：パワーコンディショナ。発電電力を系統電力に変換する機能を備えた装置。 4

## ● 工事用資材等の運搬について

- ・ 資材等の運搬車両は最大で15~20台/日（片道）を想定している。
- ・ 運搬にあたっては、交通安全ルールの徹底や地元車優先はもとより、通勤・通学の時間帯を配慮した運搬計画とする。
- ・ 通勤についても相乗りの推奨を行う等できる限り台数を制限し、発生台数の低減を図る。
- ・ 主要走行ルートの利用に当たっては、事前に道路管理者と協議・調整を図り、地元利用者の優先性、安全管理を徹底する。



● 土地の形質変更の判断のための主要設備等、工事概要及び面積

主要設備等	設置数量等	工事概要	形質変更の有無 ○：有、×：無	形質変更 面積 (m <sup>2</sup> )
送変電設備	1カ所	20m角で基礎(深さは約1m)を設置し、上部に変電設備(H=20m)を設け送電する。 (20m×20m=400m <sup>2</sup> )	○	400
サブ変電所	15カ所	4m角で基礎(深さは約0.3m)を設置し、上部に変電設備(H=3m)を設け送電する。 (4m×4m×15=240m <sup>2</sup> )	○	240
パネル支持杭	46,875本	75,000枚の太陽光パネルを設置するため、支持杭(φ200)を打ち込む。打ち込み深度は1.5~2.0mである。 (0.1m <sup>2</sup> ×3.14×46,875=1,472m <sup>2</sup> )	○	1,472
パワーコンディショナー	236カ所	1m角で基礎(深さは約1m)を設置し、三相3線式の機器を設ける。 (1m×1m×236=236m <sup>2</sup> )	○	236
外周フェンス	80,000m	第三者の侵入防止のため、太陽光パネル設置エリアの外周にフェンスを配置する。フェンスは1.8m毎に支柱を設置する。支柱の基礎石は0.2m角、深度0.8mのコンクリート製にて施工する。 (0.2m×0.2m×80,000m÷1.8m=1,778m <sup>2</sup> )	○	1,778
樹木の伐採	4,868m <sup>2</sup>	ゴルフコース間の樹木の一部を伐採する。伐採は地上から樹木の立ち上がりを約0.5m残存させ、かつ除根は行わず、表土の保全を図る。	×	0
ソーラーパネルケーブル	5,000m	太陽光パネルからパワーコンディショナーに接続するパネルケーブルは地上置型にて設置し、表土の保全を図る。	×	0
雨水受け砕石	600m <sup>2</sup>	降雨時に太陽光パネル面を伝って落下する水滴等による表層の土壌浸食及び散水効果による雨列の発生を防止するため、表土上に砕石と流出防止ネットを整備する。	×	0
合 計				4,126

# 防災計画

## ●建設工事中

原則的には造成しないこと、ゴルフ場コース間の樹林について伐根せず伐採に留めることから、土砂や濁流の流出は基本的には地区外には流出させない計画である。

## ●供用後

供用後のパネル面下については、現況のとおり草地環境になるよう配慮する。  
大規模防災に備え、保険に加入し、万一の災害発生時において、適正に対処する。



## 環境の保全のための措置

### ● 工事中及び稼働後における騒音・振動・粉じん対策

- ・ 低騒音・低振動・低公害型の工事車両や建設機械を採用する。
- ・ 工事車両のアイドリングストップや相乗りを励行する。
- ・ 施設稼働後の設備については整備点検を確実にを行い、適正な維持管理を実施することで大気汚染や騒音・振動の発生抑制に努める計画とする。
- ・ パワーコンディショナーなど発電設備の稼働に伴う騒音による影響が極力発生しないよう、低騒音型の設備採用を検討する。

### ● 動植物

- ・ 樹木伐採は必要最小限に留める。
- ・ 樹林の維持管理については、イノシシ等の獣害が発生しないよう定期的な下草刈り等を行う。

### ● 廃棄物

- ・ 工事中に発生する廃棄物については原則リサイクルを徹底し、リサイクルができない残材については廃棄物処理法や建設リサイクル法を順守して、分別・減容化を推進し、適正な処理処分を実施する。

### ● 反射光

- ・ 太陽光パネルには反射防止膜ARコーティングを採用することで、太陽光パネルそのものの表面反射を抑える計画とする。

## ●交通安全

- ・工事施工期間中の作業員の通勤等について、山間部エリアの幅員減少等の認識を共有して地元車両優先を徹底する等して危険防止に努める。
- ・建設機材の運搬や資材の搬入にあたって大型車両が通行する場合は、通勤・通学の時間帯をできる限り避けるなどの配慮を徹底する。

## ●その他

- ・施工期間中においては現場事務所において緊急時対応責任者を選任して、緊急対応に備える。この選任内容及び連絡先等については外部の通行者等が確認認知できる場所に掲示して、緊急事態の認知、及び対応の迅速化を確保する。

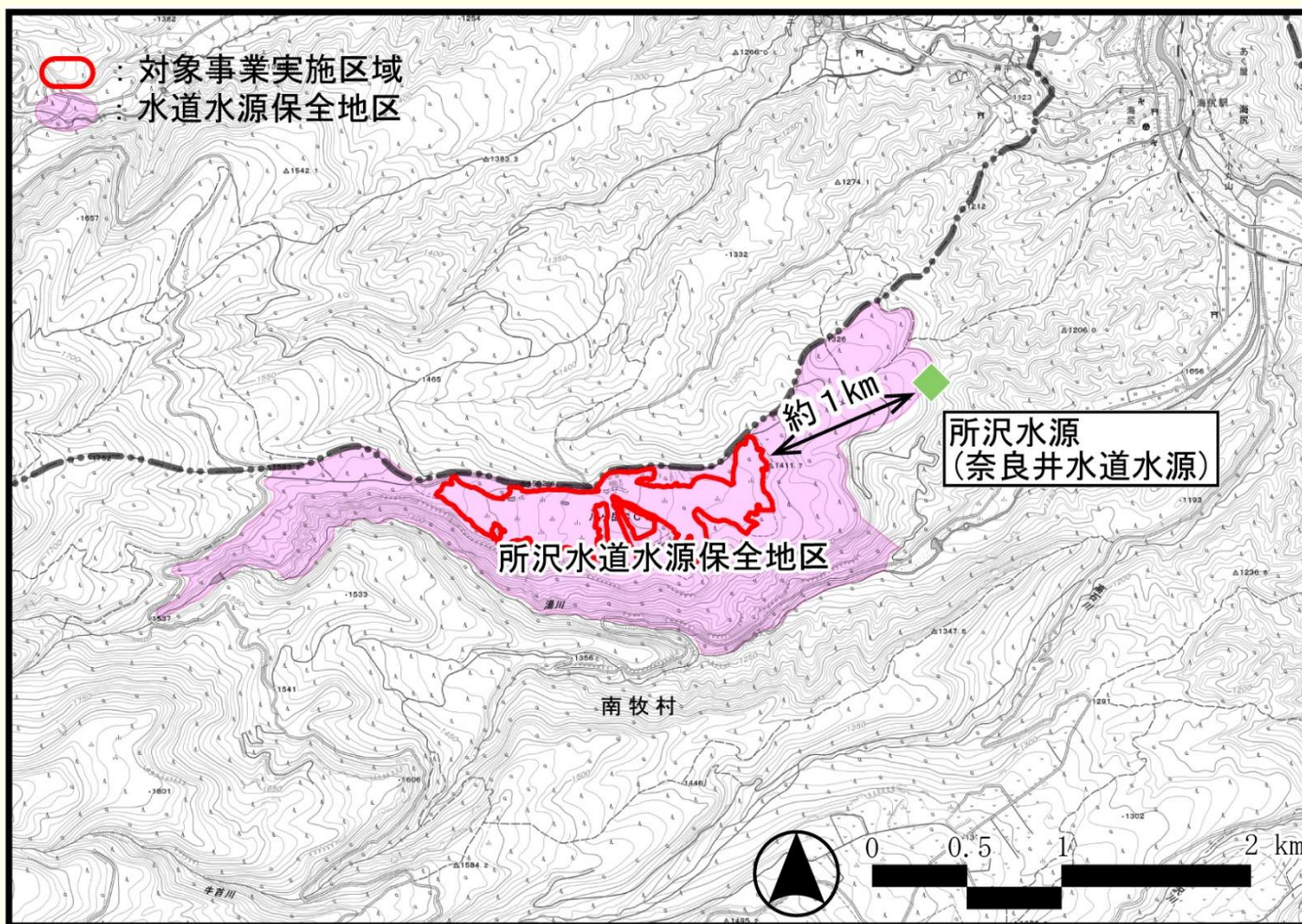
## 発電設備の維持管理計画

- ・稼働後の施設の維持管理については、保安管理業務委託先による保安規定（電気事業法）に基づく設備の月次点検と年次点検をベースとして実施する。
- ・遠隔監視システムを導入することで、保安管理業務委託先等が遠隔で発電状況、破損状況などを24時間のモニタリングを行い、異常時には自動通報が可能であり、異常の状況によっては電気主任技術者がすぐに現地に駆け付け、修繕・交換等の対応ができる体制とする。
- ・防犯のために事業区域周囲には関係者以外立ち入りができないように、フェンスを設置する計画とする。

# 周辺の環境について

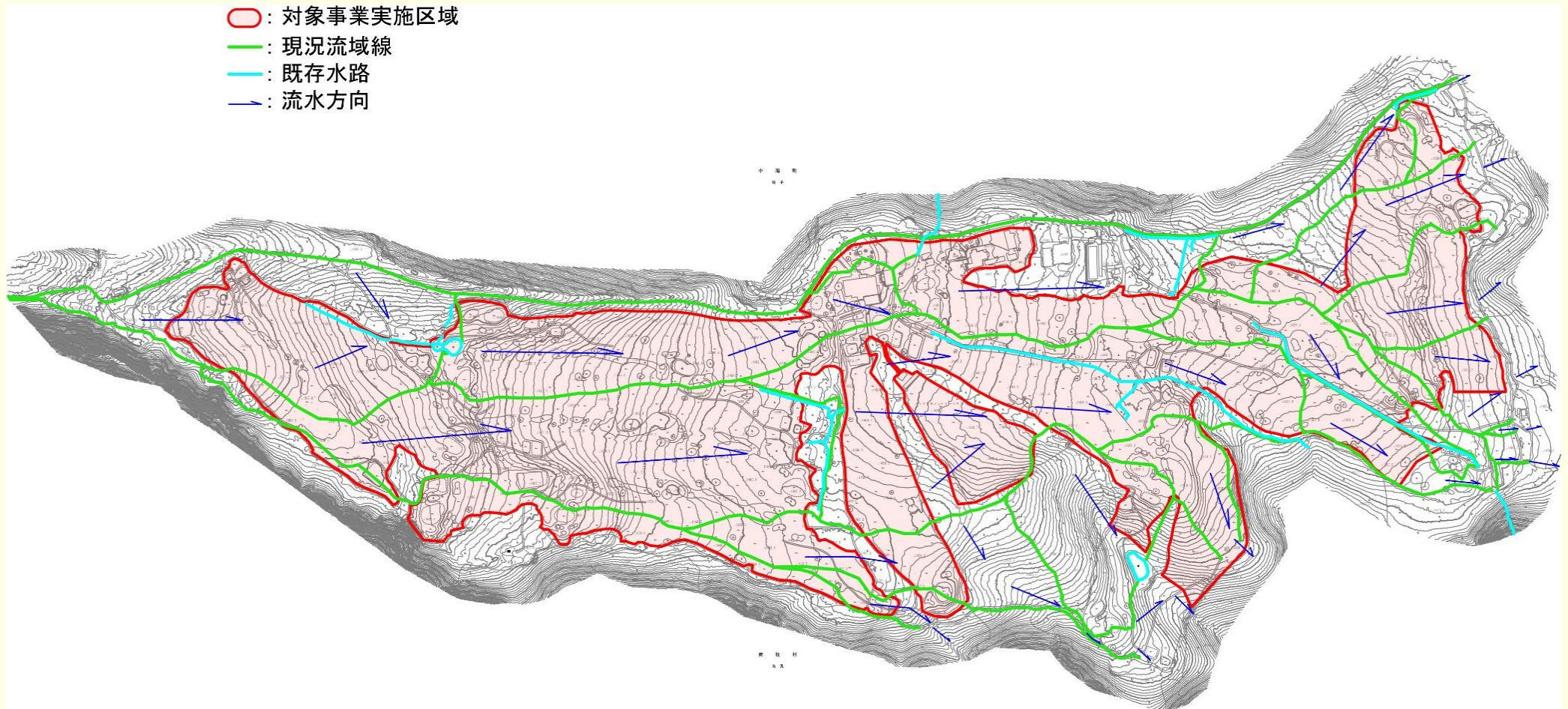
## ● 水道水源保全地区

対象事業実施区域及びその周辺は、長野県水環境保全条例（平成4年 長野県条例第12号）に基づき所沢水道水源保全地区に指定されている。周辺の水道水源は下流約1 kmに所沢水源（奈良井水道水源）がある。所沢水源は、海尻簡易水道の水源として利用されている。



# 対象事業実施区域の既存水路、流域界及び流水の流れ

対象事業実施区域内及び周辺における既存水路、流域界及び流水の流れは、下図のとおりである。既存水路は多くが土側溝で構成されている。大局的な水の流れは、西方から東方である。



# 送電方法等について

計画する発電所からの送電は、南牧村大字海尻字柳原地区の中部電力鉄塔に接続する計画である。送電方法は、本発電所から系統連携地点までの小海町町道及び南牧村村道の認定された公道に送電線を地中埋設する方式を検討している。しかしながら、一部で道路幅員が狭隘で工事により地区の方々にご迷惑をかける懸念を考慮し、また地形的側面から、電柱、鉄塔等による架空線による送電も検討している。送電ルートは約5.8kmである。

